

附 録

倉敷天文臺 10 年

(創立滿10年に因みて)

主事 水野千里

緒言 創立記念式を舉行したのは、去大正15年11月21日であつたが、所謂日月流るゝが如く、滿10周年を迎へる時が來た。過去を顧み、現状に鑑み、將來の計畫を樹つるは此の時である。

1. 設立の由來 天文同好會が創立された翌大正10年1月岡山縣社會課の主催で「時博覽會」が開かれたとき、京都大學の新城、山本兩博士が天文講演の爲め來岡された。我が國民の天文知識普及に努力されて居るところの山本博士は岡山の土地が、天文臺の位置として、氣象狀況が非常によいから、岡山支部會員に天文臺設置に盡力する様にと獎められた。

大正11年9月山本博士は在外研究員として、歐米に向つて出發され、大正14年3月に歸朝された。歐米に於て77ヶ所の天文臺を視察された結果、民衆的天文臺の設置を唱へられ、殊に天文同好會支部所在地中、岡山附近は第一候補地に擧げられた。

大正14年12月28日天文臺設立委員に原澄治、水内清治、岸本洗太郎、浦上宗衛、森本慶三、宮原節、水野千里の7氏が擧げられ、山本博士がこれを統率されることになつた。翌15年4月9日に倉敷市の素封家原澄治氏が32糎反射望遠鏡を寄附するゝことになつたので、望遠鏡は山本博士から英國に注文され、神戸港に到着したのは9月13日、倉敷へは10月9日に運ばれた。假觀測室は原氏の好意によつて、急いで建てられ、11月21日に創立記念式が舉行せられ、役員は名譽臺長原澄治、臺長理學博士山本一清、臺員理學士宮原節、中村要、主事水野千里と定められた。

2. 位置 岡山縣倉敷市住吉町にあつて、東經8時55分4秒96、北緯34度35分33秒3である。

3. 臺員 現在は名譽臺長原澄治、臺長理學博士山本一清、臺員理學士宮原節、理學士小山秋雄、荒木健兒、主事水野千里の諸氏であるが、中藤益之介、佐々木元一、小川龍五郎の方々が種々御盡力になつて居る。

4. 設備 a. 土地 102坪, b. 観測室 7坪5, c. 研究室 11坪75, d. 諸器械 32種反射望遠鏡, 7種屈折望遠鏡, 10種反射望遠鏡, 3種屈折望遠鏡, クロノメータ11箇等である。

5. 事業 【a. 民衆教育】 官公立の天文臺では自由に參觀は許されないが、「民衆天文臺」たる倉敷天文臺では、參觀人を歓迎し、天文知識の普及に努力して居る。毎月第一、第三土曜日を公開日とし、当日は天文講演、觀望をなすことにして居る。

昭和9年から公開日に七夕祭(陰曆7月7日)と觀月會(陰曆8月15日)とを加へ、講演、觀望を行つて居る。

今公開日及び特別集會日を除き、創立以來毎月の參觀者数を一表として次に掲げやう。

月 年次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計	附 記	
大正15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	107	147	11月創立	
昭和 2	61	98	440	1259	1056	403	57	73	209	448	650	160	4917		
3	13	109	367	470	76	89	143	12	235	396	45	456	2411		
4	73	222	298	1136	959	175	52	14	158	428	120	48	3683		
5	5	165	382	1196	1395	189	76	12	26	111	142	153	3852		
6	101	320	772	1471	2064	103	265	87	356	345	655	69	6608		
7	376	198	697	480	1148	162	148	217	128	1022	120	505	5201		
8	57	410	342	416	668	438	152	54	499	455	943	480	4914		
9	169	338	476	2023	1936	91	253	86	334	102	248	315	6371		
10	373	83	115	960	1107	102	1	0	0	61	185	130	3117		通計 41218
11	8	0	144	70	0	309	1	80	0	/	/	/	612		

【b. 創立記念日】 大正15年11月21日。毎年11月頃記念式を行ひ、記念講演其の他の行事がある。今記念講演の演題及び講師を次に掲げる。

創立記念式	(大正15年11月21日)	天體と望遠鏡	理學博士 山本 一清
1周年	(昭和 2年11月10日)	水星の太陽面經過に就いて	水野 千里
2周年	(„ 3年11月27日)	月食の話及び觀測	理學博士 山本 一清
3周年	(„ 4年11月23日)	天文學と天文臺	理學博士 山本 一清

		歐米天文臺瞥見	理學士	宮原 節
		屈折望遠鏡と反射望遠鏡		中村 要
4 周年	(〃 5年11月29日)	現今の曆法改良問題	理學博士	山本 一清
		月の秤動に就いて	理學士	百濟 教猷
5 周年	(〃 6年11月15日)	現代天文學の尖端	理學博士	山本 一清
		我がカフス釦		西岡永太郎
		研究事項發表		荒木 健兒
6 周年	(〃 7年11月27日)	ジョン・ハーシェルの小傳		荒木 健兒
		彗星と流星との關係		水野 千里
7 周年	(〃 8年12月21日)	經緯度測定と天文學	理學博士	山本 一清
9 周年	(〃 10年10月24日)	東洋文化と天文	理學博士	山本 一清
		變星觀測の現況	理學士	小山 秋雄
		來年の日食		荒木 健兒

【c. 講習會】

第 1 回	(昭和 5年 8月17—20日)	實際天文學	理學博士	山本 一清
		流星に就いて		小橋孝二郎
		大熊星座と小熊星座		水野 千里
第 2 回	(昭和 6年 8月22—24日)	趣味の天文學	理學博士	山本 一清
		太陽及び曆の話解説		水野 千里
第 3 回	(昭和 7年 8月10—12日)	天體觀測法	理學博士	山本 一清
		星座の歌と詩		水野 千里
第 4 回	(昭和 9年 8月18--20日)	初等天文學一班	理學博士	山本 一清
		星座の知識		水野 千里
第 5 回	(昭和11年 8月24—26日)	基礎天文學	理學博士	山本 一清
		變星に就いて	理學士	小山 秋雄
		星座と天球		水野 千里

備考 岡山支部主催天文學講習會5回、倉敷天文臺主催前記の5回と合せて10回岡山縣下に於て行はれ、天文學知識普及の爲め聊か寄與した。支部主催の分は第1回大正10年12月26—29日「實際天文學」理學博士山本一清、第2回大正11年6月10—11日「火星」理學博士山本一清、第3回大正14年7月29—30日「天

文學史¹理學博士山本一清，第4回大正15年4月10—11日²「太陽とは何ぞや」理學博士山本一清，第5回昭和8年8月23—25日³「望遠鏡製作法」工學士坂本鑿四郎，⁴「天文教材解説」水野千里であつた。

【d. 研究事項及び観測】

倉敷天文臺の**経緯度観測**第1回は大正15年11月20—24日，理學博士山本一清，理學士竹田新一郎兩氏観測，第2回は昭和9年10月13—16日理學博士山本一清，理學士稻葉通義，理學士公文武彦の3氏が観測された。

掩蔽観測 第1回昭和2年12月15日金星が6等星ボン目錄南緯 11° 第3736號といふ星を掩蔽したときに，理學博士山本一清氏が観測された。第2回昭和8年2月20日月が土星及び金星を掩蔽した時には，理學博士山本一清，荒木健兒，鹽見幸三，水野千里の4氏が観測した。

月食観測 昭和3年11月27日理學博士山本一清観測。

昭和6年2月以來昭和10年2月迄，荒木健兒は**黃道光**，**對日照**，**變星**，**太陽黒點**等の観測に従事した。

昭和10年3月から現今迄理學士小山秋雄は主として**變星**観測中である。

行啓 昭和9年6月3日高松宮同妃兩殿下當天文臺に行啓の榮を賜る。臺長山本一清御説明申上ぐ。

6. 將來の計畫

【a. 天文參考館】天文書の蒐集，太陽系プラネタリウムの備付け，天文諸器械の陳列，天文に関する圖表，統計表の作製等天文に関するもの及び天文の參考に供すべきものを集め度。

【b. 氣象観測】天文と氣象とは離るべからざる關係を有するものであるから，氣象一般の観測も行ひ度。

【c. 其の他】設備を完全にし度，年々の經常費は原名譽臺長の御厚意に因つて支給されて居ることは洵に感謝の至りであるが，一つ基本財産の篤志寄附を得て，經費に顧慮することなく，天文知識の普及に前進すべきものである。

【d. 傳記編纂事業】岡山縣下出身の古今の天文學者の傳記を編纂することは地方天文發達を知り，併せて文化の一端を窺ふに足るであらう。

岡山縣立圖書館受武藤正治氏の厚意によつて知り得たる天文家は次の様である。

1. **和田省齋**は岡山の人、貞享2年(西曆1685年)に生れ、天明4年6月(1739年)歿す。享年55。天文を司天監猪飼監に學び曆を製して之れを進め後恆例となつた。

2. **原田茂嘉**は岡山藩士、元文5年(1740年)に生れ、文化4年6月17日(1807年)歿す。享年68。寶永中江戸に在勤、時に和漢算法、天經專問等を求め、獨力勉強した。安永の初め、京都に在勤し、土御門家の家人西村千助に就き、遂にその蘊奥を極めた。

3. **小林退結**は岡山藩士、寶曆11年11月(1761年)生れ、天保7年5月(1836年)歿す。享年76。職を藩の船手に奉じ、天文曆數、射御、刀槍の術皆秘奥を研究し、遂に免許22流の多きに達した。

4. **片山金彌**は岡山藩士、天明8年(1788年)生れ、嘉永4年8月21日(1851年)歿す。享年64。幼にして天文曆數を原田茂嘉に學び、天保7年藩命に依り、江戸に至り、幕府の天文官澁川景佑(高橋作衛門の二男)に従つて、天文曆學を學び、免許皆傳を得た。天保13年3月幕府景佑に命じて曆本を改正せしめ、岡山藩主に命じ、金彌をして景佑を輔けさせた。尋いで幕府に出仕を命じ、曆學の用務を命ぜらる。その蘊蓄せる曆理は大に信頼せられた。

5. **箕作阮甫**は津山藩醫、寛政11年(1799年)生れ、文久3年6月17日(1863年)歿す。享年65。藩主に従ひ、江戸に役し、宇田川榛齋に従ひて洋學を講ず。天保10年幕府命じて司天文臺譯員に補す。

6. **宇田川興齋**は津山藩醫、文政5年(1822年)生れ、明治20年5月3日(1887年)歿す。享年66。廣瀬旭窓、安積良齋に就いて漢籍を學び、坪井信道及び榕庵に従ひ、西洋醫學を研究し、津山藩醫となり、傍ら幕府天文臺の翻譯を助けた。

7. **崖田善之**は岡山藩士、文政7年3月(1824年)生れ、明治10年7月(1877年)歿す。享年54。祖父淺五郎、原田嘉茂に學び、算數、曆象、測量を以て藩吏となつた。伊能忠敬の沿海を測量して岡山に來た時、淺五郎これをその旅舎に訪ひ、曆理を談じ、遂に忠敬の業を助け、三備伊豫の沿海諸島を測量した。

淺五郎に一女あり、常八郎を養ひこれに配し、善之を生んだ。善之幼にして祖父に従ひ算數を學び、後片山金彌に就いて學び、藩の允許を得て幕府の天文官澁川景佑及び西洋醫學家伊東玄朴の門に遊び、曆數及び洋學を學び、金彌の後を受けて藩學に従事し、嘉永4年、歳28初めて新曆を作り藩主に獻じ、爾來毎年これを例とした。

8. 箕作秋坪河賀郡(阿哲郡)皆部付(上房郡皆部村)の人、文政8年(1825年)生れ、明治19年12月3日(1886年)歿す。享年62。幼にして父を喪ひ、稻垣木公の門に學び、後箕作阮甫の門に入つて、和蘭學を修めた。阮甫の義子省吾歿したので、約して父子となり、大阪の緒方洪庵に就いて學び、嘉永2年業成りて歸り箕作氏を冒す。時に歳26。尋いで天文臺譯員に補せられた。

明治元年家を長子奎吾に譲つて、三叉學舎を開き、人材教育を以て自ら任じ、森有禮、中村正直等と明六社を興した。

配は阮甫の仲女、四男を擧ぐ長を奎吾といひ、大學少博士となり、先ちて歿した。次子大籠出で、本姓菊地氏を襲ぎ、三子佳吉、四子元八共に博士となり令名があつた。

9. 平松誠一は都宇郡(都窪郡)下庄村の人、天保12年3月27日(1841年)生れ、昭和6年8月13日(1931年)歿す。享年91。安政6年正月和算家藤田秀齊の門に入り、元治3年3月福田理軒に師事し、測天、測地の法を研鑽し、遂に曆術を授かつた。明治4年以來備中一圓、備後6郡、四國各地に至り測量に従事し、又山陽鐵道豫測、別子銅山鐵道の測量、吉備線の測量、兒島灣開墾地の水道敷設等に関して功勞尠からず、又測量術を教授し、その門下20國に及び、又和算の大家で其の著書數十部に達し、又和歌、狂歌、俳道を嗜み、書畫をよくした。支那天文に造詣深く、一々の星名を暗記し、死に至る迄火星の觀測を怠らなかつた篤學の士であつた。

結語 當天文臺10ヶ年間の參觀人員約60000人、この一事は誇るに足るであらう。小山理學士の變星觀測報告がPublications of the Kurasaki Observatory, No. 1. として獨逸天文雜誌 Astronomische Nachrichten Nr. 6207 に掲載せられ、東亞に倉敷天文臺あることが、世界の天文學者に知られたことは愉快である。諸設備其の他今後待つこと多大である。